

田植え後 30~40 日過ぎ稲丈も 40cm、1 株の茎数も約 25 本程度に分けつし根もしっかりと張ってきました。この時期行わなければならない作業に田植え後水を湛えてきた圃場の水を抜いて圃場を乾燥させる、中干し作業があります。この作業管理を行うことで、次のようなメリットが期待されるといわれています。

- ・無効分けつ（穂にならない茎）の抑制効果。
 - ・地中への酸素供給促進効果（水を湛えつづけると土中の酸素不足から有機質の分解が遅れ、稲の根の生長に悪影響を及ぼす硫化水素等のガスが発生します）。
 - ・茎の下部節間の生長を抑え収穫期前の倒伏抑制効果。
 - ・圃場表面の乾燥による硬化で秋の収穫期の作業が容易になる効果。
- 等いわれていますが、私は中干しにより圃場表面の水分がなくなるため、稲の根は水分を求めより深部に根を伸ばし通常では供給できない肥料と水を得ることができ、**より丈夫で健全な稲**に育ってくれるものとおもっています。今年の中干しは 6 月 18 日に開始し 7 月 6 日終了しました。

中干し効果を上げるため圃場内に縦、横の溝（V字の江）を、溝切り機使用し作ります



しかし、前号でも述べましたが、圃場内に共生するオタマジャクシ、ドジョウ、タニシ等の水性動物にとっては、この中干し期間は大変厳しい状況を作ることになってしまいます。トノサマガエルが激減したのもこの中干しが原因ではないかといわれています。今後これら水性動物と共存できるよい方法がないかが緊急の課題だと思っています。

稲丈と茎数の確認作業

中干しも終了し再度通水した圃場では、現在稲丈も約 60cm ~ 70cm に生長しています。（孫も手伝っての、稲丈と株の茎本数調査）



磷酸と苦土の追肥肥料



今年は、有機肥料等を多めにすき込んだことから、追肥は窒素を控え、秋の収穫に効果が期待される、磷酸と苦土を主の追肥を行いました

草刈機を使用しての畔道の除草作業



今年の梅雨も新潟では中、下越（長岡～村上）にかけ何度か大雨に見舞われましたが、こちら上越（妙高）では、適度の雨と日照りがつづいたため、稲は順調な生育となっています。あと 2 週間もすると、出穂が始まるため、水管理の大切な時季になってきます。

間もなく新潟でも梅雨明けとなりますが、稲の生育に劣らず雑草の生育も旺盛で、これから収穫期まで、猛暑の中での除草作業がつづくことから、脱水症状に注意をし、頑張りたいたいとおもっています。

今年の畦畔刈り残し文字アートは？？？・・・

発行者：〒 944-0023 新潟県妙高市西条 7 5 5

妙高西条農園長 池田博子

☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908

E メール： ikedada@kanta.jp

ホームページ URL： <http://www.kanta.jp>